

医学研究センター

安全管理部門

三谷 幸之介
(部門長)

1. 部門構成

部門長 三谷幸之介：医学部 ゲノム応用医学 (教授)

感染分野

副部門長 村上 孝：医学部 微生物学 (教授)

部門員 前田卓哉：大学病院 臨床検査医学 (教授)

堀内 大：医学部 微生物学 (講師)

森 隆：総医セ 研究部 (教授)

光武耕太郎：国医セ 感染症・感染制御科 (教授)

佐藤正夫：保医学部 臨床検査学科 (教授)

河村 亨：大学病院 中央検査部 (課長補佐)

池田和博：医学部 ゲノム応用医学 (准教授)

樽本憲人：大学病院 感染症科・感染制御科 (准教授)

薬物・廃液等環境分野

副部門長 奥田晶彦：医学部 ゲノム基礎医学 (教授)

部門員 森 隆：総医セ 研究部 (教授)

三島和彦：国医セ 脳神経外科 (准教授)

山賀 貴：保医学部 臨床検査学科 (助教)

淡路健雄：薬理学 (准教授)

西本正純：中央研究施設 RI 部門 (准教授)

齋藤健一：総医セ 薬剤部 (次長)

藤原智徳：保医学部 臨床検査学科 (教授)

DNA 分野

部門長 三谷幸之介：医学部 ゲノム応用医学 (教授)

副部門長 千本松孝明：RA センター (教授)

村上 孝：医学部 微生物学 (教授)

部門員 小谷典弘：医学研究センター (教授)

森 隆：総医セ 研究部 (教授)

海老原康博：国医セ 臨床検査医学 (教授)

米田竜馬：医学部 ゲノム応用医学 (講師)

脇田政嘉：保医学部 臨床工学科 (講師)

菅原哲雄：RA センター 知財担当 (講師)

荒木靖人：リウマチ膠原病科 (准教授)

百瀬修二：総医セ 病理部 (教授)

動物分野

副部門長 森 隆：総医セ 研究部（教授）
 部門員 堀内 大：医学部 微生物学（講師）
 小野川 傑：保医学部 臨床検査学科（教授）
 横尾友隆：中央研究施設 実験動物部門 日高ブランチ（准教授）

RI 分野

副部門長 西本正純：中央研究施設 RI 部門（准教授）
 部門員 長谷川幸清：国医セ 骨盤腫瘍科（教授）
 熊倉嘉貴：総医セ 画像診断科・核医学科（教授）
 茅野秀一：保医学部 臨床検査学科（教授）

2. 今年度の活動**感染分野**

当分野は本学における病原体等の取扱いに係る安全確保の適正な実施のため、病原性微生物等管理委員会のもとに活動している。令和5年度では、病原体等取扱申請書19件（新規申請5件、継続申請14件）、病原体等移動（受入）申請書4件、病原体等取扱変更申請3件が提出された。これらの申請等に関して、病原性微生物等管理委員会で審議、修正された後、すべて承認された。また、教育訓練受講証明書を8件発行した。R5年度大学院実用実験医学講義（第3回：令和5年5月16日実施にて「バイオセーフティとバイオテロの動向」）を堀内委員（微生物学）が教育訓練を兼ねて担当した。令和5年11月14日に西入間警察署警備課による危険物質等取扱施設基礎調査依頼に対応した。また令和5年12月15日付で内閣官房（文部科学省研究振興局ライフサイエンス生命倫理・安全対策室）から病原性微生物保有状況調査依頼に対応するため、リサーチアドミニストレーションセンターと協力して研究主任宛に各基本学科・部署への調査を実施し、結果を報告した。

薬物・廃液等環境分野

薬物分野としての令和5年度における主な活動としては、RAセンターと共に、各基本学科で保管しているリスクアセスメント対象の化学物質の種類・量及びそれら物質の管理状況について情報を収集したことが一番に挙げられる。かつ、RAセンターが中心に進められた各基本学科での化学リスクアセスメントの実施に対しても、当該分野としてできる限りの協力を行った。なお、これらの活動は、労働安全衛生法改訂に対する対応として行ったものである。その他、連年と同様に、研究用に用いられている麻薬及び向精神薬の使用・保管状況について情報を収集した。加えて、麻薬を用いて研究を行っている研究者の中で、当該年度、麻薬研究者免許の有効期限が切れる研究者に対しては、免許更新の希望を確認し、更新のための手続きについてサポートした。廃液等環境分野としての活動については、当該年度においても、各キャンパスにおける担当事務職員と随時連絡をとり、特に問題が起こっていないことを確認した。

DNA 分野

令和5年度の遺伝子組換え生物等の使用等における審査申請状況は次の通りである。第二種拡散防止措置申請書（承認36件）、内容変更（承認30件）、教育訓練受講証明書発行（25件）を実施した。また、大学院博士課程共通科目「実用実験医学特別講義」を6月に実施した。課外プログラム等で本学ならびに他大学の学生が組換えDNA実験に従事する場合、教育目的であれば、研究計画に学生を追加しなくても良いこととした。ただし、実験責任者の責任として、研究計画に記載の研究従事者が必ず学生の横について指導をすることと、学生に教育訓練の動画を視聴させることを条件とする。また、承認済み実験の遺伝子組換えマウスを別実験で使用する場合、新規申請書に、既承認の承認番号のみを記載するのではなく、そのマウスの飼育（P1A実験）を必ず実験計画の一部として記載することとした。

今後も、審査基準のポイントを明確にすることで、委員会として審査基準のさらなる統一について継続して検討する。

動物分野

学内にて実施される全ての動物実験は、各キャンパスに設置されている動物実験小委員会そして埼玉医科大学の動物実験委員会により動物実験計画書の審査・承認が行われている。令和5年度、各キャンパスから提出された動物実験計画書223件〔注意を要する動物実験計画書：組換えDNA実験（P1A実験：75件、P2A実験：8件）、感染実験（ABSL1実験：4件、ABSL2実験：8件、毒物使用実験：17件、RI使用実験：12件）〕、動物実験中間報告書・自己点検票202件、動物実験結果報告書・自己点検票21件、動物実験計画（変更・追加）承認申請書51件、動物実験（終了・中止）報告書21件、実験室設置承認申請書29件について審査を行い承認した。さらに、随時メール審査を開催し、円滑に動物実験計画書、動物実験計画

(変更・追加)承認申請書, 実験室設置承認申請書の審査を行い承認した。様式 8 動物実験の自己点検票と様式 9 実験動物飼養保管状況の自己点検票により, 令和 5 年度の動物実験そして飼養保管状況の自己点検を行った。遺伝子組換え生物等を使用した動物実験は, 組換え DNA 実験安全委員会により第二種使用等拡散防止措置承認申請書の審査・承認が行われた。また, 動物実験等に関する情報公開を外部閲覧可能なホームページ (<http://www.saitama-med.ac.jp/medlinks/animal/index.html>) に行った。

RI 分野

中央研究施設 RI 部門利用者及びゲノム棟動物用 CT 装置利用者の被ばく管理を含めた, 放射線利用に係る安全管理は, 放射線取扱主任者である西本正純, 日詰光治両名によりなされている。令和 5 年度は, 健康被害に連なるような事故はなく, また, 監督官庁へ報告するような施設異常も生じることはなく, 安全管理に問題はなかった。RI 部門には, 令和 5 年度末に法人経費にてガンマカウンターが納入され, RI 使用実験の利便性向上がなされた。加えて動物部門との連携をさらに図ることで, 例えば遺伝子改変マウスを利用した RI 実験などを紹介するなどし, 施設のさらなる利用促進を目指し, 施設の有用性をアピールしていきたいと考えている。